

令和2年度 岩手大学教育学部附属中学校 社会科 研究主題 問題発見力を高め、社会参画の意識をもつ生徒の育成

○藤村和弘, 木村義輝

1 研究主題設定の理由

これまでの研究から
・学ぶ意義や必然性を感じている生徒を増やしたい
・パフォーマンス課題と、その評価の妥当性を高めたい
・教科横断的なカリキュラム・マネジメントの必要性

生徒の実態
・問いからの答えが長い（と感じられる）課題が苦手
・「身の回りの問題に気付き、自分が解決すべき課題にする力」（全国学調）に課題
・コミュニティの活動に参画しようとする意欲が乏しい

今日的教育課題を受けて
・「『主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと』は、公民的資質の基礎の育成と密接にかかわるものである」（学習指導要領解説）
・「公民的資質の中核に社会参画がある」（唐木、2012）

2 社会科で育成を目指す「人間の強み」と、それを育成することで発揮が期待される資質・能力

「問題発見力」、「資料を基に多面的・多角的に思考し、答えが一つではない問題について、お互いの意見をすりあわせて納得解を見つけること」

思考力等 表面的事象にとらわれず、社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に事象をとらえ本質を見抜く批判的思考力

協調性等 他者との対話など異なる視点からの考えを聴き合い、自分の考えを再構築したり合意形成を図ったりする力

主体性等 実社会およびそこに生起している社会的事象に関心を持ち、問題を発見したり、考察したり、解決策を考えたりするなど課題の解決に関与する力

3 研究内容

視点1 「問いをつなぐ」ことを意識した批判的思考力を高める学習プロセス

- ・学習の中で生徒個々が発見した問題や発展的な問題（下図中③ 問題）について、それを解決する時間を単元の中に保障する。
- ・「社会的な見方・考え方」のとらえを明確にし、単元の中に意図的に位置付けて働かせる。
- ・生徒たちが取り組む必然性のある課題を設定する（「真正な学びの場」の設定）。

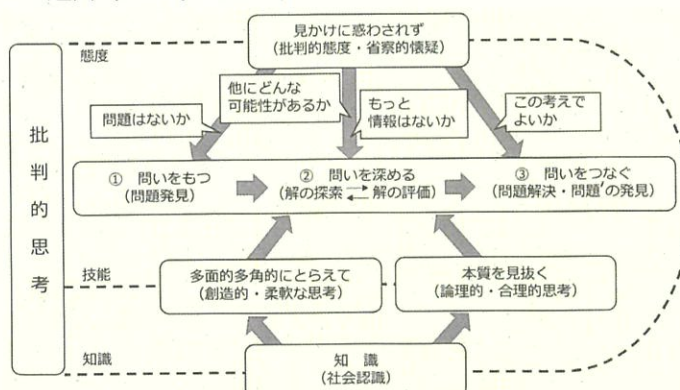
視点2 学びの自覚化を促す学習評価

- ・生徒が具体的に学習を改善できるようなフィードバックを行う。
- ・子どもたち自身に学習改善を進める力（メタ認知能力）を育成するために、学習の場として『評価活動』を位置づけ、そこへ子どもたちを主体的に参加させていく（相互評価や教師との対話、評価基準の共有など）

視点3 社会科における情報や情報通信技術の効果的な活用

- ・情報を正しく読み取っているか、そもそもその情報は正しいのか、必要な情報の収集方法など、情報の活用能力を育成する。
- ・情報通信技術（ICT）を積極的に活用し、教科の学びを深めたり、学びの本質に迫ったりするようにする。

【図 批判的思考力を高める学習プロセス】
※道田（2001）を基に作成



【表 批判的思考力を高める具体的な学習活動】

① 問いをもつ	② 問いを深める	③ 問いをつなぐ
ア 社会的事象を的確にとらえる。 イ 社会的事象相互の関係構造を把握する。 ウ 課題を発見・把握する。 エ 解決の見通しをたてる。	ア 資料を収集し、読み取った情報を記述する。 イ 社会的事象の意義を解釈する。 ウ 社会的事象間の関連を説明する。 エ 自分の意見をまとめて論述する。	ア 全体構造を把握する。 イ 学習成果が転移・応用可能かどうか考える。 ウ 他単元や他分野、他教科や実社会とのかかわりを見出す。